



## 空と大地と太陽と

氷点下の日もある、本格的な寒中です。日々空気も乾燥し、学校の中段にある蜜柑を野鳥が年明けからつついていましたが、この寒さで口も付けられない有り様です。子どもたちは寒い表情を見せながら120階段を上ってきますが、年間取り組んでいる「あいさつ」で、冷えた身体を奮い立たせています。冬晴れの朝、120階段を登り切る大人や子どもたちは、後ろをふり返って富士山の景色を眺めています。



令和5年の幕開けから1か月が経ちました。穏やかな年明けで冬休みの長かった後のスタートも順調に進み、発育測定の前には廊下で自分の身長がとても伸びたと喜んでいました。私は「冬は夜が長いから睡眠時間がとれたのかも。成長には大事な睡眠だよ。」と高学年の子どもに話をしました。子どもも「確かに。」と納得して自分の健康手帳を見開きながら実感していました。

また、今年書き初めの作品を廊下に掲示しました。1年生が堂々とした字で「天までとどけ、一、二、三。…」2年生は「楽しいお正月」と「大きなゆめ」の2種類のうちのどちらか選んだ作品。初めて条幅紙を使う3年生は「友だち」、そして4年生から6年生は「明るい心」、「新しい風」、「将来の夢」。作品を見て、複雑な字形や言葉を理解し心を込めて書く姿を想像すると、一人ひとりの小学校6年間の成長を感じます。校内書写展は2月3日まで開いていますのでご覧ください。

さて、今年度後期の折り返し地点も後半戦を過ぎ、学校では上小音楽会や長縄集会などのこれまでの取組の成果を発表する機会が近づいています。保護者の皆様に披露できる機会があることで、昨年度までと比べ子どもたちも意欲的に練習に励んでいます。ぜひ参観をお願いいたします。

ところで寒中の中、すいせんの花が日向のあたかな場所から順々に咲いています。冬の寒さの中にも春が少しずつ近づいている南階段の土手。下の方は葉っぱもちょこんと出ただけでまるで背が小さい1年生のようです。階段をあがっていくとだんだんと背の高い株になり、一番上のところはもう立派に咲き出し、寒さの中で鼻を近づけると確かに香りを放っています。その様子は6年生が卒業におけ立派な花を咲かせるようです。



ところが、すいせんは花を終えた後、葉は他の伸びやかな草木の陰になりやがて枯れてしまいます。しかし、見えない大地の中でしっかり養分を蓄え、冬至を過ぎて空の明るさの移ろいで芽吹いていきます。芽を出したすいせんは、日光の温かさを受けながらぐんぐん育ち、枯れた草木の多い寒い時期でも緑豊かにきらきら輝いています。また花は寒ければ寒いほど香りを放ち、人をにこにこさせてくれます。

学校の教育目標「ぐんぐん にこにこ きらきら輝く上小の子」と同じように1年1年の成長ぶりを感じさせる寒中の一コマです。

今月もどうぞよろしくお願いたします。

副校長 森 馨 一